

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌

kasukabe

Plus
かすかべプラス

2017 SPRING/SUMMER vol.8

「ものづくり」で人が輝くまち。

夢と誇りを抱いて

心に届くものをつくる!



【表紙の人】

春日部工業高校3年、機械科「電車班」の紅一点、板倉心愛(いたくらここあ)さん。自分たちが製作したミニ新幹線とのツーショットで、素敵な笑顔を見せてくれました。

夢と誇りを抱いて 心に届く ものをつくる!

CONTENTS

- 巻頭エッセイ.....02
- 1 “技を磨き心を育む”——高校生ってすごい!.....04
- 2 世界に一着しかないニット。.....08
- 3 かすかべ特産品の魅力再発見!.....10
桐たんす／桐箱
押絵羽子板／麦わら帽子・麦わら製品
- 4 かすかべ「ものづくり」トリビア!.....14

みんなで

シティセールスシンボルマークを使おう!



プラスワン「+1」とはこのまちに住む一人ひとりが大切に想う「春日部の好きなおとこ(魅力)」のこと。マークを使ってみんなで魅力を共有しよう。詳しくは市公式HPへ。



この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。

シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(アーアール)動画を楽しめます。スマートフォンやカメラ付きタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「Aurasma」(オーラズマ)をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。

ものづくりには
その人にしか分からない
“ゾーン”があるのかな



小中学生の頃から絵が得意で、「将来はゴッホみたいな絵描きになる!」と意気込んでいました。高校は進学校の春日部高校へ。入学早々、勉強についていけず、「これは美大に行くしかない」と思い、3年間ひたすら油絵を描いていましたね。高校美術展で賞をもらったこともあります。その絵は、春日部高校の古い本館校舎から遠く、校門をのぞむ構図で、今思えば、この場所から外の広い世界に飛び出した心境を表していたのかもしれない。多摩美術大学に入ったから、とんでもなく才能がある人間がいて挫折感を味わいました。でも、授業で粘土作品を作ったら楽しくて、周りからの評価も高かった。粘土が打ちひしがれていた僕を救ってくれたんです。

芸人の仕事をはじめから、雑誌で創作の企画があった時、携帯電話やゲーム機を粘土で盛って不条理なケースにしたら面白いんじゃないかとひらめきました。使いづらくなってもあえて日常的に使うことでアート・パフォーマンスになる、と。これはすごい発明だ、誰かにマネされちゃうぞ、と心配したんですけど、あまりにも作るのが大変だと思われるのか、いまだに誰もマネしないですね。

粘土の作品を掲載する雑誌の連載も今年で18年目。作るのに時間はかかるんですけど、俳優業の合間のいい息抜きになっている気がします。俳優は、

監督や演出家がオッケーを出してはじめて完成する仕事。粘土での創作は、きわめて個人的な、誰のためでもない時間です。そこでバランスをとっているのかもしれない。没頭しすぎて、気づくと5時間経っていた、なんていうことも。いわゆる「ゾーン」に入る瞬間というか、脳内から何らかの快樂物質が出ているんじゃないでしょうか。きっと、ものづくりを仕事にしている職人さんも、その人にしかわからないゾーンがあるんじゃないかな。

今は12歳と5歳の子とも一緒に粘土でものづくりをするの面白いコミュニケーションになっていきます。僕は美術の基礎や技術があるので、どうしてもうまく見せようとしてしまうんですが、子どもは衝動だけで作る。その純粹なエネルギーには刺激を受けますね。誰も子どもへの頃は、何かを作るのに熱中したはずですけど、仕事や結婚で忙しくなるとやめてしまう人が大半です。僕の作品を見て、「久しぶりに何か作ってみようかな」と思ってもえたらうれしい。上手に作ろうとする必要はないんです。嫌なことを忘れて、無心に作っている時間にこそ意味があるんですから。

1973年、埼玉県南埼玉郡宮代町出身。多摩美術大学在学中に小林賢太郎と共にユニット「ラーメンズ」を結成。以後、俳優、ラジオパーソナリティ、粘土創作などさまざまな分野で活動中。写真の作品は片桐さんの粘土作品。タイの形をしたiPhoneケース「鯛Phone5」やメガネケースをベースにした「メガネゴン」など、いずれも既存の製品を粘土で盛ってオリジナルアートにしている。

巻頭エッセイ

かたぎり じん

片桐 仁

(春日部高校出身・芸人・俳優・粘土作家)



+1のあるまち kasukabe



春日部工業高校教諭
おそがわ ひろとし
小曾川 博壽先生



文化祭終了後、仲間と1つのことを成し遂げた達成感を抱きながら、アーチの解体作業に取りかかる生徒たち。

「建築現場ではお互いに声を掛け合
わないと危険な場面が多いんです。
たとえばアーチの上で作業している
人がいるのに、黙ってその下で解体
を始めようとすると事故が起きてし
まいますよね。お互いを信頼し気軽
に声を掛け合える関係性が築かれ
てこそ、現場の安全は保たれるし、

春日部工業高校では3年次に、そ
れまでの学習の集大成にあたる「課
題研究」と呼ばれる実習授業が導入
されている。さまざまなものづくり
のテーマの中から生徒たちがそれぞ
れ興味を持ったものを一つ選び、班
の仲間と協力しあいながら1年かけ
て形にしていくのがこの授業だ。

相手の優れた部分を認めて あげることが人間関係の基本



建築科アーチ班リーダー
やべ そうた
矢部 颯汰さん

卒業後は
宮大工の道に
進みます

建築科の課題研究は6班に分かれ
ているが、その中で大工や木工職人
を目指す生徒に人気が高いのが、文
化祭アーチの設計施工を行う「アー
チ班」。班を指導する小曾川博壽先
生は、チームでのアーチづくりを通
じて技術や知識だけでなく、人間関
係の大切さを学んでほしいと語る。
「規模の大きな建築物をつくる際
には、多くの人の協力がどうしても必
要になります。自分一人ではできな
いことがあることを知り、できない
ことをどうやって他者と取り組むか
を学ぶのがこの授業のポイントです。
他者と協力して作業に取り組むとき
もっとも重要なのは「相手の優れた部
分を認めてあげる」という意識。要
求や意見を一方的に主張しているだ
けでは良好なコミュニケーションは
生まれません。まずはお互いの長所
を認め合うことが大切なんですよ」

誰も置いていかない。全員で 資格取得を目指すのが春工流

作業のモチベーションも高まってい
くはず。これまでの自分は専門
技術を磨くことばかりにこだわって
きましたが、課題研究の中でものづ
くりには他者との協調も大切だとい
うことがよく分かりました」



道の駅庄和で行われた「春日部
工業わくわく体験イベント」に
て、電気科は「ラジコンカーで遊
ぼう!」を出展。多くの地域の皆
さんと触れ合う機会を得た。

電気科では課題研究だけでなく、
資格取得のための指導にも力を注い
でいる。成果は数字にも表れていて、
第二種電気工事士合格者数は県下の
高校の中でトップを独走中。さらに
平成28年度は、超難関として知られ
る第三種電気主任技術者試験に、電
気科3年の小島健太郎さんが見事合
格を果たした。
「春工の先生方は資格試験の指導に
すこく熱心なんです。試験の準備
のために『0時限授業』と呼ばれる
朝講習が毎日実施されている
だけでなく、試験1週間前
からは放課後補講も行われ
ています」

資格試験合格
には本人の
やる気が大切

電気科3年
こじま けんたろう
小島 健太郎さん



「ものづくり」で人が輝くまち。

「2016年高校生ものづくり
コンテスト」全国5位を
受賞した矢部颯汰さんが
中心となって制作された、
春工の文化祭アーチ。和
風の組木細工があちこち
に施されているのが特徴。



“技を磨き心を育む” ——高校生ってすごい!

昭和39年の創立以来、地域を支える「ものづくり」のスペシャリストを輩出してきた
埼玉県立春日部工業高等学校(通称:春工)では、生徒たちに専門技術の習得だけでなく、
他人を思いやる心、ものづくりに対する責任感や真摯な姿勢を伝えている。

すごいって褒められると自信がわきます



機械科電車班リーダー
かんだ はると
神田 悠斗さん

道の駅庄和での「春日部工業わくわく体験イベント」で、子どもたちを乗せて走る機械科電車班製作のドクターイエロー。



資格試験のための補講は他の工業高校でも当たり前のものとなっているのだが、なぜ春工生の合格率は他校と比べて高いのだろう。その理由を本沢宏重先生はこう分析する。「春工では受験希望者の中の一歩習熟度の低い生徒のレベルに合わせた指導を行っているんです。時間はかかりませんが、そうすることでほとんどの生徒が合格できるようになる。もちろん教員側がいくら熱心に教えても生徒側がやる気がなければ合格は望めません。その点、春工の生徒たちは強制しなくても、放課後も学ぼう」と言うと、全員が残ってくれた。生徒のやる気が教師にとっての励みになり、相乗効果を生んでいきます」

評価されるのが生徒たちの誇りや自信につながる

春工といえば毎年「ミニ新幹線」をつくっている高校としても有名だ。ミニ新幹線の製作は、機械科の課題研究で「電車班」が行っている。イ

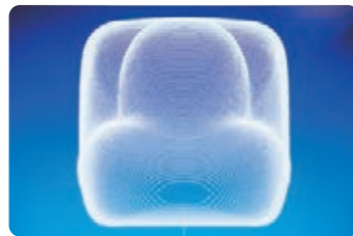
ベントなどで子どもたちを乗せて走るミニ新幹線の姿を見て「自分も製作に関わってみたい」と憧れを抱いて機械科に入学してくる生徒も多く、表紙に登場してくれた板倉心愛さんいたくら こゐもその一人だ。しかし、見た目の優雅さ、格好よさとは裏腹に、実際の新幹線製作には地味で根気が必要作業が多く待ち受けている。「一番大変なのが夏休み中に行う車体の成形作業です。ベースとなる形の上にガラス繊維を何層も貼り付けていくのですが、ガラス繊維は肌チクチク刺さるので真夏の暑い時期でも長袖とマスク姿で作業しなくてはならないんです。おまけに細かい繊維クズが空調に詰まってしまうため、作業中はエアコンは使えない。今思い出しても地獄のような日々でしたね」(リーダー神田悠斗さん)「でも形が完成して仕上げの塗装が終わったときは、みんなでおおー」と思わず感激の声を上げてしまいました。つらい作業を全員で力を合わせて乗り越えた後の達成感は計り知れません。おそらく電車班で体験したことは一生の思い出となるはずだ(副リーダー吉田光さん)よしたけ ひかる電車班のメンバーたちは新幹線製作の大変さを口々に話しながらも、表情は生き生きとしていて自信に満ちあふれている。電車班を指導する津野章久先生は、生徒たちの笑顔の



先輩たちが過去にやらなかったことに挑戦してみようという想いから、今年は3DCADとマシニングセンタ(数値制御工作機械)を使ってベースの形を製作することとなった。

理由をこう語る。「ミニ新幹線の場合は文化祭で走らせて終わりではなく、その後のイベントなどで多くの人に喜んでもらえることが魅力です。外部の人たちに『これ本当に高校生が作ったの?』『すごいじゃない!』と評価されること、彼らにとっての誇りや自信につながっているんですよ。教員としての私の役目は、流れをフォローすること、もう遅いからいい加減に帰ろうよ」と生徒たちに声を掛けること。私からそう言い出さないと、夜9時過ぎまで作業に熱中していても帰ろうとしないんです。そんな彼らも3月には巣立っていくことになりませんが、春工で培ったものづくりへの情熱を忘れずに、地域社会で貢献してくれることを期待しています」

3次元図面から直接工作機械を動かすプログラムを作成して造形することで、本物の形状を忠実に再現した。



春日部工業高校教諭
ほんざわ ひろしげ
本沢 宏重先生

電気科の小島健太郎さんは春工生としては5年ぶりとなる電気主任技術者試験に合格。通常は4科目の試験を2~3年かけてクリアしていくのだが彼は1年でそれを成し遂げた。



春日部工業高校実習教員
ほそい ちはる
細井 千春先生

春日部工業高校教諭
つの あきひさ
津野 章久先生

今年の電車班が製作したのは、新幹線の架線や線路の検査のために運行されている「ドクターイエロー」。指導したのは津野章久先生と細井千春先生。



取材時に店を訪れていた難波さん、吉田さん、宮腰さん。三人とも秋山ニットでオーダーしたセーターを着用。化学繊維は使用せず、天然素材のウール100%とオーガニックコットン100%にこだわっているのも秋山ニットの特長だ。

ひとりのお客様の体に合うニットをお届けしたいと思いましたが（貞義さん）
編み立てから縫製まですべての工程を夫婦で行う丁寧な仕事ぶりが評判を呼び、徐々に口コミで顧客が増えていった。



世界に一着しかないニット。

東武スカイツリーラインの一ノ割駅から徒歩5分ほど歩いた場所にある「秋山ニット」は、夫婦二人だけで“世界に一着しかないニット”を製造販売しているオーダーニットの専門店だ。大量生産の既製服が主流となった時代に、お二人が今も“手仕事”にこだわり続ける理由とは？

訪れたお客様の姿勢や体形を見て、背中丸い人の場合は、後ろ身頃を長めにするなど、それぞれの体形に合った工夫を凝らしてくれるのもこの店ならではの。最近は色やデザイン、サイズにこだわらなくて、高年齢向けに脱ぎ着しやすいものを作ってもらいたい、というような、特別なオーダーも増えているという。
「先日は介護施設で暮らすお母さんのワンピースを作ってほしいという注文がありました。車椅子に座ってもずりあがらないように裾を少し重くしたり、後ろから介護の人が名前

どんな細かいリクエストにも応じられるのが強み

「オーダーメイドというが高価なイメージがありますが、流通経費を省いて、良質なものを少しでも安く提供することにこだわったのがよかったのかもしれない」
価格は一般のオーダーメイド店の半額程度。こんなに安く利益は出るのだろうか？
「欲をかかなければ今の価格でも十分やっています。決して儲かる仕事とはいえないけど、お客様が編み上がった服を着て微笑んでくれる姿を見るのがうれしくてね。今となっては商売というより完全に趣味の世界ですね」

良質なものを手頃な価格で提供すれば需要はあるはず

秋山ニットの昭和44年創業のニット工房。現在は秋山貞義さん、かず子さんご夫婦だけでオーダーニットの製造販売を行っているが、かつては10人の従業員を抱え、大手衣料メーカーから依頼された縫製を中心に請け負っていたという。

「20年ほど前から生産拠点を中国に移す企業が増えて、急に仕事が減り始めたときに、この先は思い切った事業を縮小し、かねてからやりたかったオーダーメイドスタイルのニット店を二人で始めてみようと考えました。新しく横編機を購入し、今まで培ってきた技術を生かして、一人

お金儲けよりもお客様の笑顔が生き甲斐なんです



生涯現役を目指してずっと二人三脚でがんばらなきゃね！

採寸・型紙・縫製担当
あきやま 秋山 かず子さん

カラー・編み立て担当
あきやま さだよし 秋山 貞義さん



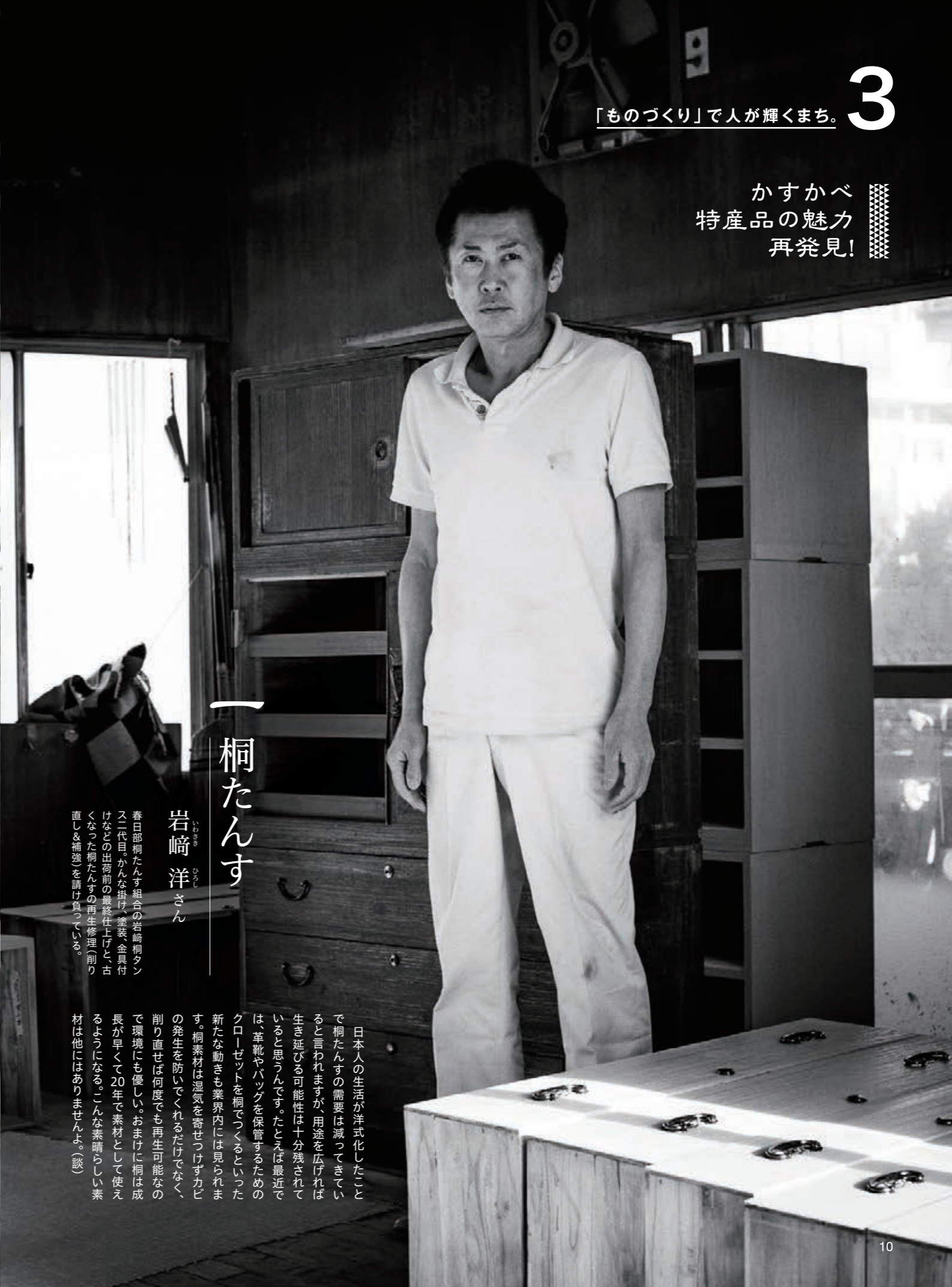
編み上がった生地アイロンがけと裁断・縫製はかず子さんが担当。縫製工場に勤めていた20代の頃、ニット商品を納める仕事をしていた貞義さんと出会ったのが二人のなれそめ。昨年、金婚式を迎えた。



300色以上の糸の中から縦糸と横糸を選びだし、お客様のイメージする色を再現していく貞義さん。柄物を作る場合は、細かい計算をしながら編み機のコンピューターにパターンを打ち込んでいく。

「ものづくり」で人が輝くまち。

かすかべ
特産品の魅力
再発見!



一 桐たんす

岩崎洋さん

春日部桐たんす組合の岩崎桐たんす二代目。かんざし掛け、塗装、金具付けなどの出荷前の最終仕上げと、古くなった桐たんすの再生修理(削り直し&補強)を請け負っている。

日本人の生活が洋式化したことで桐たんすの需要は減ってきていると言われますが、用途を広げれば生き延びる可能性は十分残されていると思うんです。たとえば最近では、革靴やバッグを保管するためのクローゼットを桐でつくるといった新たな動きも業界内には見られます。桐素材は湿気を寄せつけずカビの発生を防いでくれるだけでなく、削り直せば何度でも再生可能なので環境にも優しい。おまけに桐は成長が早く20年で素材として使えるようになる。こんな素晴らしい素材は他にはありませんよ。(談)

二 桐箱

山田隆夫さん

春日部桐箱工業協同組合(株)山田桐箱製作所二代目。現在は贈答用のメロンや漆器等の箱のほか、貴金属や神社のお守りを入れる箱などを中心に製作している。

桐箱づくりで一番難しいのが材料の使い方。箱に使う桐材は、基本的に小さな正目板を何枚かはぎ合わせて作っていきますが、いかに木目をきれいに合わせていくかが職人の腕の見せどころです。とは言っても工芸家とは違うから、いくら素晴らしい箱を作っても名前が表に出ることもないし、私たちの仕事はあくまで商品の引き立て役に過ぎません。でも贈られた人が喜んでくれる顔を想像すると嬉しくてね。どうしても手を抜けないんです。(談)



四

麦わら帽子・
麦わら製品

吉村 幸蔵さん

春日部帽子組合の吉村商店四代目。明治創業の老舗工房。現在はストローバッグ・麦わらバッグや小物を中心に製造している。

昔は春日部には麦わら製品をつくる工房が30軒以上あったけど、今は4軒ほどになってしまいましたね。うちも、もともとは麦わら帽子を製造していたんだけど、帽子は夏場しか売れないし、価格競争も激しくなりそうだったので、父が昭和29年にストローバックづくりを始めたんです。当時は「吉村が麦わら」ことをやりはじめた「とさんざん」言われたらしいけど、今も「この仕事を続けられていることを思うと、父には先見の明があった」と言っているのかもね。(談)



三 押絵羽子板

坂田 好之さん

春日部羽子板組合の匠一好羽子板のさか田代目。20代まではメーカーに勤務していたが、ものづくりに興味があったのと、奥様の実家が羽子板の木地職人だったことから昭和49年に羽子板づくりの道へ。

豪華な振り袖スタイルや、現代的な柄や色、表情など、伝統の中に新しい時代感覚を取り入れたのがうちの羽子板の特徴です。興味深いことに羽子板は時代を反映しているんですよ。バブルの頃は地味な黒い着物の羽子板が大売れしましたが、不景気になると暖色系の派手なものが売れ始めた。おそらく元気がなりたいという思いが人々を明るく色へ向かわせたのでしょう。最近では格差社会が進みつつあるせいか、高級なものと安いものの二極化が進み、中間価格帯が売れなくなっています。いずれにせよ羽子板は「邪気をはね(羽根)のける」という縁起物。皆さんに幸せが訪れるように職人一同、願いを込めながらつくっています。(談)



かすかべ
特産品の魅力
再発見!

田中 優さん

田中帽子店六代目。百貨店の営業職を経験した後、家業を継ぐことに。目下の夢は東京オリンピックの開会式の制服として自社の帽子が採用されること。

去年8月に家業を継ぐことになったのですが、伝統を守りながらも時代にあった帽子や経営スタイルを提案していくことが、これからの自分の役目だと思っています。帽子づくりで一番難しいのは渦巻きを中心部分を縫っていく最初の工程です。スタートで気を抜くと美しい帽子が完成しないのと同様、自分にとっても今がまさに「正念場」。将来経営の道に進む「こ」になったとしても、職人さんの苦労やものづくりの現場を知っておくことは決して無駄にはならないはず。(談)



かすかべ「ものづくり」トリビア!

3 マウスコンピューターは、かすかべ大通りの「高島屋衣類店」のガレージから始まった!



今や東京都千代田区に本社を置く大企業となったパソコンメーカー、マウスコンピューター。当時19歳だった高島勇二氏（現・MCJグループ代表）が祖父の経営する「高島屋衣類店」を引き継いだ際に、祖父の事業の将来性に不安を感じて、自分で事業を立ち上げようと模索したのが出発点だという。

マウスコンピューターは、1993年、当時学生だった高島勇二氏が、自宅でパソコン通信のサイトを立ち上げ、近くの工業大学生やコンピューター好きな人たちを集めて、改造や増設などを始めたのが始まり。

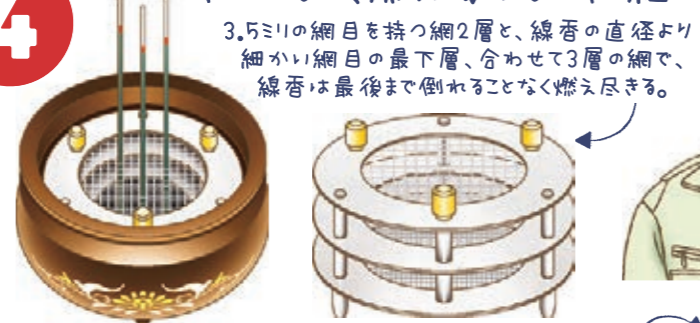


「Easy-300」
1999年に発表、3000円以下で話題を集めた。

4 “倒れない! 燃え残らない!” 灰を使わない線香立てを開発!

4

灰を使わない線香立て「STRATUM 香層(こうそう)」
倒れない、燃え残らない仕組み



3.5mmの網目を持つ網2層と、線香の直径より細かい網目の最下層、合わせて3層の網で、線香は最後まで倒れることなく燃え尽きる。

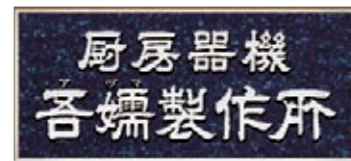


開発者の坂口哲男さん



考案の母のアイデア

考案の出発点は、難病の母が線香をうまく刺せず何度も量を焦がして火災の危険があったこと。キャンディーの空き缶を使って倒れない線香立てをつくった。



「早沸きそばカマド」など業務用厨房器機の製造・販売会社吾嬬製作所(粕壁東四丁目)の二代目坂口哲男社長は、先代の遺志を引き継ぎ、「独自開発の自社製品」にこだわりを持っている。考案した「新製品・発明品」は25種類以上。その中で、新聞やテレビでも紹介され話題となっている商品が……コレだ!



③エバメールゲルクリームでハンドトリートメント。

エバメール

①会社紹介、商品説明、プロジェクトでの解説。



工場見学の流れ



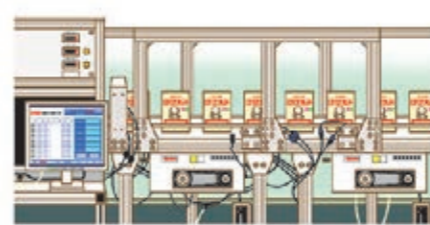
②工場見学。カリ粒子の細かいゲルクリームをつくるための大型製乳化釜などを見学した。



所要時間約1時間半、1週間前に要予約

5 キレイになれる!? 人気の工場見学がある!

二〇〇五年(平成17年)に豊野町に建てられたエバメール化粧品埼玉工場は、水をテーマにデザインされ、おしゃれな建物はまるで美術館のよう。東日本大震災以降いったん中止になっていた工場見学が二〇一四年に再開。多くの人が見学に訪れ、「商品体験で肌の透明感がアップした」などと好評だという。



徹底した衛生管理のための完全自動化された設備で製造、充てんされている。



明治の粉ミルク「ほほえみ」に従業員さんのユニフォーム。帽子とヘアネットも着用。

かすかべの「ものづくり」と聞いてみなさんが最初に思い浮かべるのは、先に紹介した桐製品などの特産品のこと? いやいや、それだけではありませんよ。「ものづくり」にまつわる、こんな「へえ〜!」となるような情報をご存知ですか。

1 meiji

明治の粉ミルク「ほほえみ」と「ステップ」は、春日部の工場だけで生産されている!



明治の粉ミルクは日本で長年トップシェア(一般的に公表されている金額ベースで40%以上)、それがここ埼玉工場で製造されている。



世界初のキューブタイプの粉ミルク「くぐくくキューブ」も埼玉工場が製造。



南栗町工業団地にある明治の埼玉工場。一九七七年(昭和52年)から、原料の調合、殺菌から缶への充てんまで、粉ミルク製造のすべての工程がここで行われている。独自の先端技術で実現したキューブタイプの粉ミルクも埼玉工場製で、「使いやすい」とママ・パパからの嬉しい声が届いているという。

2 桃屋の「ごはんですよ!」も、メイド・イン・カスカベ!

2

一九七〇年(昭和45年)、桃屋創業50周年の年に春日部第1工場、事務所、厚生棟が落成。以来第2、第3工場が新設され、桃屋の製造部門は春日部工場に集約されていった。「江戸むらさきシリーズ」などのお馴染みのロングセラー商品から話題の新商品まで、多くのピン詰め商品がここで作られている。



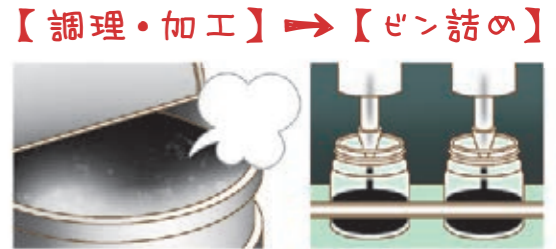
「こぼれず油」「辛そう」で辛くない少辛ラー油「キムチの素」などが春日部工場が製造されている。



新鮮保存&安全のためのキャップの秘密
キャップをする直前にビン内の空気を吸出して真空にするため、キャップの中央部分のボタンがへこんでいる。開けると空気が入りポンと音がしてボタンがふくらみ、一度開けたらボタンは戻らない。



「こぼれず油」「辛そう」は、主に三重県産のトウモロコシ(通称青9)が原料。松阪工場へ混入物除去したのちに春日部工場に運ばれ、調味・加工、ビン詰めが行われる。



【調理・加工】→【ビン詰めの】
醤油、砂糖その他の調味料で味付けし、大きな釜で炊く。のりの葉の形状を残す「あぶり炊き」がこだわり!

こちら、シティセールス広報課です！

EVENT



4/23 (日)

春日部藤まつり 7種類のフジの花を楽しもう！

春日部駅西口から延びるふじ通り。通りの両側には200本以上の市の花「フジ」が植栽され、約1kmに渡る藤棚に垂れ下がる花房のもと、4月下旬の日曜日に「春日部藤まつり」が開催されます。「ふじ通り」を会場に、イベントのメインになる各団体のパレードなどが繰り広げられ、沿道は多くの出店で賑わい、見て・食べて・買って楽しむことができます。ふじ通りでは4月中旬から5月初旬にかけて、7種類のフジの花と香りを楽しむことができます。

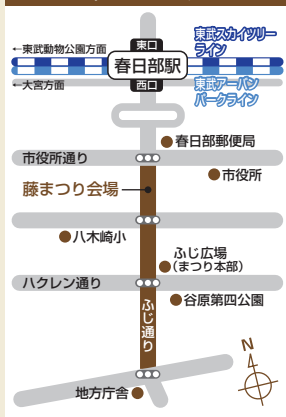
場 所：春日部駅西口「ふじ通り」郵便局交差点～地方庁舎前
 時 間：午前 10 時 30 分～午後 4 時
 問 合 せ：春日部市コミュニティ推進協議会事務局
 (市民活動センター「はばら春日部」内)

T E L: 048-731-3550

アクセス：東武スカイツリーライン・東武アーバンパークライン春日部駅西口下車 徒歩7分
 雨天順延：4月29日(祝)

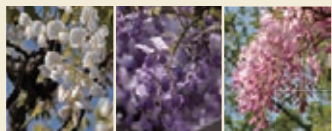


アクセスマップ



ふじ通りの花の種類

房の短いフジ
 開花時期が早く、香りも強いといわれる



房の長いフジ
 開花時期は遅く、藤棚から垂れ下がる姿が美しい



春日部市「ふじ通り」への銘板設置

「ふるさと納税」でふじ通りのフジをみんなで守ろう！

春日部市では、平成28年4月から老朽化したふじ通りの藤棚の再整備を行う「ふじ通り藤棚修景事業」を進めており、「ふじ通りのフジ」を一緒に守っていくため、「ふるさと納税」で寄附を募集しています。あなたの寄附により、まちの藤棚が美しく保たれます！

春日部市へふるさと納税をしていただくと、お礼品として、オリジナルのメッセージやお名前等を刻印した銘板の設置を選ぶことができます。

詳しくは
 市公式
 ホームページへ

PRESENT

感想をお寄せいただいた方の中から
 抽選で2名様に、片桐仁さんの
 サイン入り著書『親子でねんど道』をプレゼント！



2名様

- 応募受付期間…平成29年4月1日(土)～平成29年8月1日(火)必着
- 応募方法……①市公式ホームページ内専用フォームからご応募ください。
 → [かすかべプラス](#) で検索！
- ②官製はがき以下の項目をご記入の上、ご郵送ください。

□お名前・性別・年齢・ご住所・電話番号
 □本誌の入手先 □よかった記事(ページ番号) □ご意見・ご感想
 《応募宛先》〒344-8577 春日部市中央六丁目2番地
 春日部市役所シティセールス広報課 かすかべプラス第8号プレゼント係



READERS VOICE

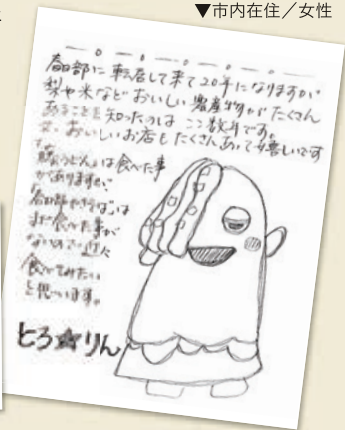
読者からの声を紹介！

“『おいしい！』でみんながつながるまち”と題して、「春日部の食」をテーマとした前号、『かすかべプラス第7号』に対して、お寄せいただいたご意見・ご感想の一部を紹介させていただきます。

▼市外在住/男性
 春日部はグルメの街ですね。今は引越してから訪れる機会が減ってしまいましたが、今度、ゆっくりと訪れたいと思います。

▼市内在住/女性
 何気ない日常の中で、お菓子などのパッケージの品質表示欄を見て、製造場所が自分と関係がある地名だと、ちよつと嬉しくなったりすることありますよね。「ものづくりトリビア！」の記事でも紹介しましたが、春日部には大手企業の工場がいくつもあります。春日部という地で商品が作られ、全国に発信されているなんて、なんだか誇らしい気持ちになりますね。今回「ものづくり」をテーマに取材をさせていただいた職人さんは、皆、お客様のことを考え、一つひとつのものを丁寧に作り上げていました。読者の皆様も、そんな春日部で作られた良質な商品、製品に触れてみてはいかがでしょうか。

(春日部市シティセールス広報課)



編集後記